

タイトル 『新版ポーターージ早期教育プログラム』の開発と臨床適用の研究				
分野	キーワード	③ 早期療育	④ 親・家族支援	
医療・福祉				
研究者氏名: 清水 直治 (所属: 文学部教育学科)		[お問い合わせ先] TEL: 03-3945-7389 メールアドレス: shimz@toyo.jp		

**【概要】**

障害のある乳幼児の早期からの発達相談と親・家族支援を行うプログラムである『新版ポーターージ早期教育プログラム』を開発し、その臨床的妥当性を実証した。

**【研究内容】**

NPO 法人日本ポーターージ協会(会長 清水直治)は、アメリカ合衆国ウィスコンシン州ポーターージで1972年に開発された『Portage Guide to Early Education: PGEE』の1976年改訂版をもとに翻案して、1983年に『ポーターージ乳幼児教育プログラム』を開発し、その臨床的妥当性を検討し有効性を実証した。

障害のある乳幼児を家庭でその親や家族が中心になって療育を行う『Portage Guide to Early Education :PGEE』は、30カ国語以上に翻案され、とくに発展途上の国々のCBR(Community-Based Rehabilitation)活動のなかで活用されている。日本ポーターージ協会は、『ポーターージ乳幼児教育プログラム』を日本全国及びアジアの国々に普及させることを目的に1985年に設立され、2000年に東京都からNPO法人に承認され、2005年に創立20周年を迎えた。そして創立20周年を記念して、それまでの20年以上に及ぶ臨床経験を踏まえて『ポーターージ乳幼児教育プログラム』を改訂し、『新版ポーターージ早期教育プログラム』を開発した。

『新版ポーターージ早期教育プログラム』は、5つの発達領域(「社会性」、「身辺自立」、「認知」、「言語」、「運動」)に0~6歳の発達水準の576の行動目標が、発達の順次性・系列性に従って配置されている。アセスメントによって、それぞれの発達領域の中の指導範囲にある行動目標を選び出し、一定期間に親や家族が家庭を中心に療育を行う。このようなポーターージ相談は、資格を持った認定相談員との面談のもと、現在48カ所にある支部を拠点に臨床適用されその有効性が実証されている。

各国におけるポーターージ活動の成果は、各年に開催される国際ポーターージ会議で報告される。

**【実用化・活用が見込まれる分野・対象業種等】**

保育所、幼稚園、児童発達支援センター等の就学前教育及び福祉機関

**【関連特許】(特許名称・出願番号等)**